## 高 山住吉神社の鳥 居・



の高山だといわれている。山の際、その従者十九人が住みついたのが現上の際、その従者十九人が住みついたのが現下平神護年間(七六五)、開成皇子勝尾寺 在入

三)二月の左辨宮下文の写しに高山の名のあるのを最初とする。(総合清渓村誌・奥野慶治著による)本殿は寛永九年(一六三二)八月二日の造立で、後明和年間に焼失し、現在のものはその後改築されたものである。 境内は約五四〇坪、老杉・老桧を主とする古木に囲まれ、程よき傾斜を利用、南面してまさに区内最良の地に造営され、産土神(うぶすなのかみ)鎮守の森としてあがめた祖先の思いがしのばれる。 社殿(十坪)・拝殿(十坪)・土蔵(三坪)・社務所(十坪)と共に、石造物として鳥居(元禄十年建立)・燈籠(延享年間から文化年間まで)、狛犬(文化元年)等がある。 他に、お旅所・八幡社等が地域内にあり、四年ごとのお渡りには、神輿・太鼓・神楽の奉納が行われる。





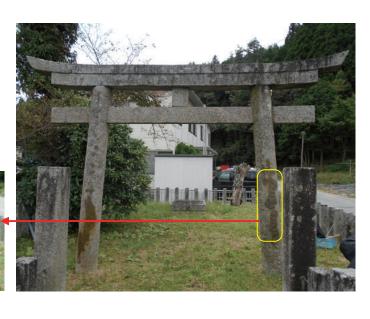




(裏面) 元禄十丁丑載九月吉祥日(右柱) 奉寄進 菊屋十兵衛

## 高山住吉神社の御旅所

所在代類 高山 高山居



(左柱)願主 北本町 講中



等は不明である。
ここに石の鳥居が建っている。建立時期
高山集落の中心地にお旅所が鎮座する。

居の柱に『奉』の下が削り落とされている。 取り締まり、 キリシタン禁教令による幕府、 高山右近生誕の地高 不都合な文字・絵が彫られ、その後に (ささぐ)と彫ったと推測される。 弾圧が厳しかった。 Щ は 徳川 高 石の鳥 間槻藩の 幕 府 0)

一六・一・二二)する。ン大名高山右近を「福者」に認定(二〇バチカン(ローマ法王庁)は、キリシタ

(洗礼名はジュスト、正義の人)。県・大和沢城でキリシタンの洗礼を受ける以高山飛騨守の影響で一二歳の時、奈良以高山飛騨守の影響で一二歳の時、奈良場下郡高山(現豊能町高山)に生まれ、

もに、所領の摂津高槻などでキリシタン教織田信長、豊臣秀吉などに仕えるとと

リーダー格であった。の布教・保護活動に努めたキリシタン大名の

る。 哲の一人が右近で、等伯・南坊とも号してい 祥で、右近は呼び名であった。又茶人利休七 幼名は彦五郎、名は長房・重友または友

となる。
高山右近は二一歳の時、父高山飛騨守(ダ

明石(六万石)へ転封する。 キリシタン教の布教に努め、天正二年(一五キリシタン教の布教に努め、天正二年(一五八五)に右近はを拠点に高槻領内へのキリスト教布教に力をを拠点に高槻で飛騨守(ダリオ)・右近父子は、

りの身となる。 たため所領を没収され、加賀藩前田家に預か仰をとるか」と迫られ、「信仰を貫く」としを発令した豊臣秀吉から「領地をとるか、信天正一五年(一五八七)、キリシタン禁令

身となり、翌年二月三日、当地で亡くなる。六一四年にフイリピンのマニラに国外追放のまる中、徳川家康のキリシタン禁教令で、一さらに江戸時代に入りキリシタン弾圧が強

## 高山マリアの墓

一碑は四基から成り、

基が離れているのが

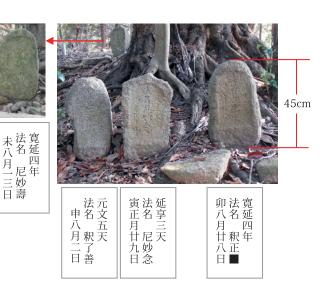
所在 高山北所 年代 元文・延享・寛延 年代 元文・延享・寛延



治期の古老の伝えによると、「マリア」の墓の所伝は明らかでないが、明「マリア」の墓の所伝は明らかでないが、明二組の夫婦の墓と伝えられている。(一七四○~五一)の年号が刻まれ、印象的である。墓碑には、江戸時代中期の元文・

絶ったのではないかとも考えられる。 にはほとんど姿を消し、村には信徒二軒が残ったが正しいとすれば、この二軒の夫婦が、墓所伝が正しいとすれば、この二軒の夫婦が、墓でいたが、やがて転宗した』という。

オの母のものではないと思われる。
しかし、この墓碑は時代に隔たりがあり、ダリアン」で聖女のように過ごしたという。
アン」で聖女のように過ごしたという。
は来騨守(右近の父)の教名はダリオ、母はマ山飛騨守(右近の父)の教名はダリオ、母はマールイス・フロイスの『日本史』によると、高



## 高山高札場の地蔵



所在 高山殿所 年代 不詳

消した。

中世末期以後、領主が法度・掟書などを記し、中世末期以後、領主が法度・掟書などを記し、中世末期以後、領主が法度・掟書などを記し、

・地蔵が祀られるようになった。。昭和五二年に改築され、のち五輪塔・小石高山高札場は現在に伝わる数少ない遺構であ

かにしないが、キリシタン遺物とも思われる。紋の先端部とも見える図柄がある。出自は明ら当時のままである。現在、内部に安置されてい当時のままである。現在、内部に安置されている中央の地蔵尊の連座には、下部に変形クルスを損して、前面を棒組みにする高札場の構造は、板塀に、前面を棒組みにする高札場の構造は、石積みの基台の上に、瓦屋根をもち、三面を



